



熊本県内で初導入となる「日野ブルーリボン Z EV」。九州産交バス株式会社をはじめ、九州電力株式会社、芙蓉オートリース株式会社、熊本日野自動車株式会社の4社が連携し運行を支えます。

成長  
企業  
の  
力  
カ  
ラ  
カ  
ラ

# 熊本の公共交通を未来へ 環境と防災を見据えた 『日野ブルーリボン Z EV』 を導入

熊本県  
九州産交バス株式会社

## 協調による新しい公共交通として地域の課題を解決

九州産交バスを中核とする九州産交グループは、熊本都市圏を中心とした路線バスや九州・関西を結ぶ高速・貸切バス事業を展開する企業です。さらに旅行事業や商業施設『サクラマチクマモト』などの飲食・物販事業も広く手がけ、熊本の産業振興に貢献しています。現在、持続可能な公共交通網の構築が求められる中、九州産交バスは県内のバス事業者とともに共同経営推進室を創設。路線の最適化や会社を問わず利用できる共通定期券の導入など、利便性向上に向けた施策を推進しています。将来を見据えた運行体制の効率化といったテーマについても、各社連携のもと前向きに検討していく方針です。

地域と一体となった歩みも同社の大きな特徴です。そのひとつとして、周辺のスムーズな交通環境の実現に向け、菊池南部地域に集積する企業向けの通勤シャトルバスを運行。マイカーから公共交通へのシフトによる円滑な移動を促進しています。日頃の運行では安全運転を徹底し、デジタコを活用した運転指導や日野自動車のお客様テクニカルセンターでの講習を実施。さらに、インバウンドなど全利用者に安心を届けるべく基本的な接客マインドの育成も重視しており、確かな“安全と接客”の両立で地域に愛される事業者を目指しています。



「快適な移動を支え、熊本の豊かな環境と安全を守り続けていきます」と語る岩崎 司見代表取締役社長。



お披露目式には関係者が集まり、導入を記念してテープカットが行われました。



導入の決め手になったフルフラットフロアは、スムーズで安全な移動をサポート。



荷物置き場4カ所とクレジット決済を備え、空港リムジンバスとしてインバウンドを含めたお客さまの高い利便性を確保しています。



今年3月、熊本県内で初となる大型路線EVバス（BEVフルフラット路線バス）「日野ブルーリボン Z EV」を導入した九州産交バス株式会社。同車両は、環境への配慮はもちろん、災害時の「動く蓄電池」としての役割も担う次世代バスとして、地域からの大きな期待を背負っています。

九州産交バス株式会社  
住所：熊本県熊本市西区上代4丁目13番34号  
TEL：096-325-8243  
代表者：代表取締役社長 岩崎 司見  
設立：2006(平成18)年4月  
<https://www.kyusanko.co.jp/>

## フルフラットがもたらす快適な移動と災害への備え

カーボンニュートラルの実現に向け、EVバス導入の必要性を感じていた同社。バリアフリー対応が求められる空港リムジンバスの車両更新のタイミングに合わせて『日野ブルーリボン Z EV』の導入に至りました。国内外からのお客さまを最初に迎える路線は、いわば“熊本の顔”。この公共交通の要所に最先端のEVバスを投入することは、地域の脱炭素化を象徴する最高のPRになるという確信が大きな決め手となりました。また、車内後方まで段差のないフルフラット構造により、大きな荷物を持つ利用者の乗降がスムーズになり、定時運行にも寄与します。「初のEVバス導入にあたり、アフターメンテナンスで実績と信頼の

ある日野自動車だからこそ、安心してお任せできました」と語る岩崎 司見代表取締役社長。乗務員からも「静かで従来のディーゼル車と同じ感覚で運転できる」と好評です。

また、4人家族で1日あたり約20軒分の電力を賄う大容量バッテリーを搭載した同車は、災害時の「動く蓄電池」としても想定。岩崎社長は「過去の地震の経験から、いざという時に地域のライフラインをつなぐ役割を果たせれば」と願いを込めます。今後は企業と連携した通勤路線などにもEVバスの活躍の場を広げ、環境負荷の低減をさらに加速させていく構えです。